

第466回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	15番 佐藤秀行	<p>1. 子育て支援事業について</p> <p>本市は、子ども・子育て支援の充実に向けて様々な事業に取り組んでいます。以前にも同様の質問をさせていただきましたが、改めてその後の状況についてお伺いいたします。</p> <p>子育て世代が子どもを“産み育てたくなる社会”の醸成を目指し、「白石市ベビーファースト活動宣言」を行いました。活動宣言に基づく具体的な行動として、子育て世帯の経済的負担の軽減、妊娠・出産期からの切れ目のない支援、子育てを通じて人々がつながり、地域ぐるみで子どもと子育て家庭を支えるまちづくりの推進の、3点を挙げています。</p> <p>本市の子育て支援事業の中で、現在実施している主な事業の一つとして、子育て世帯への経済的な支援、誕生祝い金・すくすくベビー券の贈呈があります。白石市民として誕生したお子さんが、将来地域の宝となるよう前途を祝福するとともに、子育ての経済的負担を軽減するため、市内の店舗で使える誕生祝い金の商品券とすくすくベビー券を保護者に贈呈します。これらのことを踏まえ、改めてお伺いします。</p> <p>(1) 市民として誕生した子供が、将来地域の宝となる前途を祝福するとともに、子育ての経済的負担を軽減するため、誕生祝い金とすくすくベビー券を保護者に贈呈しています。すくすくベビー券については、本年4月から増額していただきましたが、誕生祝い金については現状のままになっています。少子化の現状、物価高騰を鑑みるに金額的に増額してもよいのではないかと考えます。再度見解をお伺いします。</p> <p>(2) 小学校入学祝い金として、3万円分の図書カードを保護者に贈呈しています。第3子以降の子に対してというのを、これを第1子から贈呈することはできないのか、再度見解をお伺いいたします。</p>	市長
		<p>2. 高齢者福祉事業について</p> <p>高齢者福祉事業についてお伺いします。敬老行事について、敬老会につきましては、これまで市が各地区まちづくり協議会との共催等で各地区公民館を単位として実施してきました。しかし、近年、参加者が減少し、平成29年度全体平均で19%、約2割という状況でありました。経緯については、年々高齢者数が増加し、その準備や運営にお世話いただくスタッフも高齢化し、負担があるという声がここ数年、聞かれる状況になっており、市が一律に開催することは難しいこと</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	15番 佐藤秀行	<p>から、今後は補助金を設置し、単位自治会、複数自治会、まちづくり協議会などの単位で敬老会を開催する場合に補助金を交付することとしています。このことを踏まえ次のことについてお伺いします。</p> <p>(1) 平成29年度まで、各行政区、公民館単位で行われていた敬老会ですが、平成30年度から自治会単位で実施されるようになり5年が過ぎました。この5年を振り返って、実際現地に伺ってみての率直な感想、また自治会あるいは開催者、参加者等の声についてお伺いいたします。</p> <p>(2) 令和4年度敬老行事を実施している団体、自治会についてお伺いします。</p> <p>(3) 米寿祝い金を274人に支給しているということですが、併せて賀状については何人に支給されているのかお伺いします。</p> <p>(4) 米寿の場合、これまでは地区敬老会の会場で、式典として市長のほうからお一人お一人に賀状を贈呈しています。祝い金と賀状を併せて支給しても良いのではないかと考えます。見解を伺います。</p> <p>(5) ここ数年の実施状況を踏まえ、そのことをどのように捉え分析し、今後取り組んでいかれようとしているのかお伺いします。</p>	市長
		<p>3. 教育全般について</p> <p>令和4年度主要施策の成果等に関する説明、また総合教育会議の開催を踏まえ、今後どのように取り組まれていこうとお考えなのか、見解を伺います。</p> <p>(1) 国際交流について、令和4年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあって中止し、オンライン交流を実施しました。今年はおーストラリアカウラ市との交流が再開し、中学生を派遣できたということですが、来年度以降について現段階でどのようにお考えか、継続してカウラ市との交流を考えているのかお伺いします。</p> <p>(2) 令和5年度については、オーストラリアへ訪問団を派遣することができました。中学校の英語教員と市職員が同行したということですが、毎年市内中学校の生徒2名が中学生主張発表者の相互派遣ということで札幌市白石区と交流を図っています。引率に</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	15番 佐藤秀行	<p>ついてはどのようにになっているのかお伺いします。</p> <p>(3) 令和4年度白石市教育施策として、教育環境の整備、施設設備の充実を掲げています。本市の小中学校において、現時点で校長室にエアコンが設置されていないところがあります。今年のような猛暑、酷暑が来年度以降も十分考えられます。早急に設置すべきと考えますが、このことについてはどのようにお考えか見解を伺います。</p> <p>(4) 外国語指導助手（ALT）の増員について、ALTの活用を通して英語教育の推進を図ることができたということですが、本市として、「話す力」と「書く力」にまだ課題があると思います。このことについてどのようにお考えか、今後どのように取り組まれていこうとお考えなのか見解を伺います。</p> <p>(5) 総合教育会議についてお伺いします。10月に令和5年度第1回白石市総合教育会議が、小中学校教育の在り方答申について、全国学力学習状況調査についてをテーマに開催されました。具体的にどのような意見が出されたのか、またそのことを踏まえてどのような感想をお持ちになられたのかお伺いします。</p> <p>(6) 審議会の答申の内容について、大事なことだと思いますが、今後どのように市民に周知をしていこうとお考えなのか、見解を伺います。</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	10番 角張大治	<p>1. 公立刈田総合病院について</p> <p>公立刈田総合病院が公設民営化され、約8か月が経過しました。医業収入の増加や経営改善がなされ、単月で黒字の月もあったと聞いております。以下の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 4月～10月までの各月の収支</p> <p>(2) 公立刈田総合病院の令和4年度4月～9月分と令和5年度4月～9月分の患者数</p> <p>(3) 令和4年度4月～9月と令和5年度4月～9月の受診者の市内、市外の割合</p> <p>(4) 前年度までと比較して、収支改善は経費削減によるものか収入の増加によるものか、どちらの影響が大きいと考えるか。</p> <p>(5) 公立刈田総合病院が近隣の総合病院(大泉記念病院、公立藤田総合病院、みやぎ県南中核病院)に比べて、強みとなる点はどこか。</p> <p>(6) (5)の強みを知ってもらうような取り組みは行っているか。</p> <p>(7) 前回、前々回の議会でも同僚議員が聞いているが、空き病床の利用方法についての進捗状況</p>	市長
		<p>2. 国民健康保険税及び後期高齢者医療保険料について</p> <p>宮城県や広域連合と行っている市の事業として、国民健康保険事業や後期高齢者医療保険事業があり、これらに加入している市民が病院等を利用すればするほど、保険者である市の負担、被保険者である加入者の負担は増大するものです。また、隣接自治体の角田市で、11月22日の市議会全員協議会において、国民健康保険税の税率を25～30%引き上げる方針が示されたそうです。以上を踏まえ、以下の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 公立刈田総合病院に限らず、医療機関受診者が増えれば増えるほど保険財政を圧迫するが、市としてどのように考えるか。</p> <p>(2) 本市においては今年度、国民健康保険税が引き上</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	10番 角張大治	<p data-bbox="523 271 1185 304">げられたが、今後さらに引き上げる可能性はあるか。</p> <p data-bbox="504 353 1015 387">3. 本市の保険事業と保健事業について</p> <p data-bbox="504 405 1185 622">白石市のみならず、多くの自治体で高齢化が進んでおり、医療費や介護福祉関連費が増大しております。健康で長寿であることは、自らの生活水準を高めるのみならず、医療費等の抑制につながり、その地域で共に生きる全世代への貢献であると考えます。以上を踏まえ、以下の点についてお伺いします。</p> <p data-bbox="504 667 1185 779">(1) 市民の保険制度・健康増進に関する一体的な知識や能力の向上が必要と考えるが、そのような取り組みは行っているか。</p> <p data-bbox="504 824 1185 891">(2) (1)の内容について、職員研修等を行っているか。</p> <p data-bbox="504 936 1185 1048">(3) 例として、市の健康づくり活動に複数回参加した方や新たに健康づくり活動に参加する人を集めた方を評価するような取り組みはできないか。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	8番 四 竈 英 夫	<p>1. 農業経営及び農地に関するアンケートについて</p> <p>本市では8月に地域計画策定に向けた農業経営及び農地に関するアンケートを実施しました。本市の将来の農業をどのようにするのか。農業経営の後継者の問題や、農地の集積化、耕作放棄地の防止、有害鳥獣対策などの諸問題に対する意識調査だと思われませんが、以下の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) アンケート調査の目的と狙いについてお伺いいたします。</p> <p>(2) アンケートの結果からどのようなことが分かったかお伺いいたします。</p> <p>(3) 農家の方は農業に対してどのような意識を持っているかお伺いいたします。</p> <p>(4) 本市の農業にどのような問題点があると思われるかお伺いいたします。</p> <p>(5) 問題点があるとすればどのような対策が考えられるかお伺いいたします。</p> <p>(6) 遊休農地、耕作放棄地が増加の傾向にあると思われませんが、どのような対策が考えられるかお伺いいたします。</p> <p>(7) 農地の有効活用を進めるため、農地中間管理機構や農業委員会、農協などが連携して農地の貸し借りなどの仲介をしていますが、行政もそこに加わり総合的役割を果たすべきと思いますが、所見を伺います。</p>	市長
		<p>2. 緑地公園駐車場の舗装について</p> <p>緑地公園野球場、ソフトボール場、陸上競技場の駐車場は長年の懸案であった舗装工事が実施され、快適な環境に整備されました。施設を利用する方々からは好評の声が寄せられています。素晴らしい条件になったことは事実ですが、あえて次の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 駐車場の白石川下流方向約 50mほどが未舗装のまま残っている部分を舗装して、全面舗装完了状態にできないのかお伺いいたします。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	8番 四 竈 英 夫	<p>(2) 舗装した部分に駐車スペースを示す白線を引いて利用しやすく、また効率的な駐車ができるような配慮を講ずるべきと思いますが、所見を伺います。</p>	市長
		<p>3. 中央公民館の駐車場の舗装について</p> <p>中央公民館の駐車場の未舗装の部分は、舗装が実施されることとなり大変喜ばしいことであります。雨の日などには泥濘を気にすることなく駐車することができ、来館者にとっては快適に利用できるものと期待されます。</p> <p>しかし、既に舗装が実施されている建物周囲のタイル貼りの部分は、相当の年月が経過しているため盤面に凹凸が生じており、雨が降るたびに水溜りができて歩きにくい状況です。タイル貼りを舗装にすれば解消すると思いますがいかがでしょうか、お伺いいたします。</p>	教育長
		<p>4. 公衆トイレの清掃について</p> <p>市内公衆トイレの清掃整備についてお伺いいたします。公衆トイレは清掃整備がなされていると思いますが、稀にトイレトペーパーが切れていたり、ペーパーを取り付けている金具が破損していたりする場合があります。観光客が訪れる本市としては、快適な環境でお迎えしなければならないと思いますので、次の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 公衆トイレの数はいくらありますか、伺います。</p> <p>(2) トイレの清掃は委託しているのですか、伺います。</p> <p>(3) 点検はどのような方法で行っているのか伺います。</p> <p>(4) 鏡の取り付けも必要と思いますが、所見を伺います。</p>	市長
		<p>5. 入居不可の市営住宅の処分について</p> <p>入居不可となった市営住宅の処分についてお伺いします。建設後相当の年月が経過し、空き家となった市営住宅がありますが、防犯防災や周囲の方々への影響などを考えると、何らかの対策を講じなければならないと思います。そこで次の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 入居不可となった市営住宅はいくらありますか、伺います。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	8番 四 竈 英 夫	<p>(2) それらについてはどのような処置をお考えか伺います。</p> <p>(3) もし取り壊した場合、新たな住宅を建設することはあるのか伺いいたします。</p> <p>(4) 市営住宅への入所希望者に対する供給は満たされているのか伺いいたします。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
4	1番 佐藤龍彦	<p>1. 本市の学校給食費の見通しについて</p> <p>令和6年度の学校給食費の見通しについてお聞きいたします。今年度、学校給食費は引上げの方針が示されておりましたが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、据え置くこととなりました。そのことについて、保護者の皆さんからは、多くの歓迎の声が寄せられました。学校給食費については子育て世帯の負担軽減を図るため、また、子育て支援を目的として、全国的に無償化や一部補助などの動きが広がりを見せております。そのような中で、本市の学校給食費は、来年度はどうなるのか、保護者の皆さんの関心も高いことから質問いたします。</p> <p>(1) 昨今、学校給食費の無償化や補助が全国的に広がりを見せていることについて、本市はどのように認識しているのか伺う。</p> <p>(2) 今年度、県内の自治体における学校給食費の無償化等の現状について伺う。</p> <p>(3) 現在の物価高騰における本市、学校給食への影響について伺う。</p> <p>(4) 学校給食費を今年度同様に引上げを実施せず据え置いた場合、いくら必要となるのかその試算額について伺う。</p> <p>(5) 来年度の本市、学校給食費の見通しについて伺う。</p>	市長 教育長
		<p>2. 今後の公立刈田総合病院及び地域医療について</p> <p>公立刈田総合病院の現状及び周産期医療を中心に質問いたします。本年4月に公設民営化により、市立病院となった公立刈田総合病院については、通院されている皆さんからも、以前より対応が良くなったとの声もお聞きします。しかし、その一方で医療体制について、不満や不安を訴える声も少なくありません。そうした中で、今後の公立刈田総合病院はどのような病院となっていくのか、周産期医療の復活に向けたスケジュールや今後の仙南医療圏など地域医療について伺います。</p> <p>(1) 現在の医療スタッフの人数（それぞれ常勤・非常勤別）について伺う。（医師・看護師・技師・事務員）</p> <p>(2) 病床を199床にするために、新たに必要となる看</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
4	1番 佐藤龍彦	<p>看護師の人数を伺う。(現在、休止している一般病床47床を稼働させるために必要とされる看護師の人数)</p> <p>(3) 来年度の新卒の看護師等、職員の応募状況について伺う。</p> <p>(4) 先日、看護師の補充が進まずと地元紙が報じていたが、本市は、その要因をどのように分析しているのか伺う。</p> <p>(5) 今後、実施予定とされている周産期医療に向けて、常勤の産科医師、助産師、小児科医師、麻酔科医等、想定している医療スタッフの人数について伺う。</p> <p>(6) 分娩を再開するために、新たな設備投資が必要とされないのか伺う。</p> <p>(7) 周産期医療復活に向けて、今後のスケジュールについて伺う。</p> <p>(8) 令和5年度第2回宮城県地域医療構想調整会議(仙南区域)の会議概要において、二次医療圏の見直しについては、出席した委員から今後も仙南医療圏の人口減少が続くと考えられ、数年後には15万人程度まで減少すると思われる現状では当然であるとの発言もあった。回答としては、第8次計画における二次医療圏の見直しはしない方向であるとの考えが示された。そこで、二次医療圏見直しについて、現時点で本市はどのように考えているのか伺う。</p> <p>(9) 公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院の連携は、今後どのように進めていく考えなのか伺う。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	12番 佐久間 順子	<p>1. 民生委員・児童委員の担い手不足の問題について</p> <p>民生委員・児童委員は厚生労働大臣から委嘱され、身分は非常勤の地方公務員であって、公的ボランティアとして活動されております。特に少子高齢化により民生委員の役割や重要性は高まり、児童福祉や災害の備え等、住民生活を取り巻く様々な問題にご尽力いただいているところです。</p> <p>民生委員の任期は3年で、令和4年12月に一斉改選されました。民生委員の推薦にあたって、大変な苦勞をなされた地区もあったと伺っております。</p> <p>全国的に課題となっている民生委員・児童委員の担い手の不足について、今後、本市はどのように対応されるかお聞きします。</p> <p>(1) 本市では、昨年の一斉改選で、推薦者の定数が満たされていたか、また、この1年で退任される方はいたのか伺う。</p> <p>(2) 民生委員・児童委員の役割や重要性を市民へ浸透させるため、理解促進が必要と思いますが、いかがか伺う。</p> <p>(3) 本市の民生委員児童委員協議会は、どのような活動をされているのか伺う。</p> <p>(4) 民生委員・児童委員の担い手の問題について、効果的な施策は検討しているのか伺う。</p> <p>(5) 各地区に配置する必要がありますが、担い手の問題について、市長の見解を伺う。</p>	市長
		<p>2. 福祉バス運行事業について</p> <p>社会福祉協議会の福祉バス運行事業は、コロナ禍になる以前、福祉団体等が地域福祉を推進するため、研修、視察や社会見学、レクリエーション等に利用されてきました。</p> <p>令和4年9月に福祉バス運行事業の廃止により、遠方へ集団で出かける機会が失われたことを嘆く方もいると聞いております。</p> <p>福祉施策の推進の妨げになるのではと懸念しておりますが、バス運行の再開についてお聞きします。</p> <p>(1) 白石市社会福祉協議会に委託していた福祉バス運行事業が廃止になった経緯を伺う。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	12番 佐久間 順子	<p>(2) ここ数年のコロナ禍における実績状況を伺う。</p> <p>(3) これまで福祉バスを利用していた団体は複数あると思いますが、バス廃止以降、研修等の移動手段をどのように確保されていますか。</p> <p>(4) 障害をお持ちの方が、団体で福祉バスを利用できず、電車等の公共交通手段を乗り継ぎ、目的地に赴くことは困難と思われます。福祉バス事業を再開されることは検討されているのか伺う。</p>	市長
		<p>3. 特別支援学級の現状と教員不足について</p> <p>文部科学省によると、2021年の4月時点で不足している教員数は、全国で2,558人であることが明らかになり、これは国が定めた教員数の約0.3%にあたる人数です。中学校は特に問題で、4月の時点で教員が不足している学校が7%も存在します。これは、15校に1校は教員が不足していることを示します。このデータから、全国的に教員不足になっていることが伺えます。</p> <p>教員が不足している原因は複数考えられますが、その一つとして、特別支援学級の増加が挙げられています。文部科学省によると、小中学校で特別支援学級に通う児童は、2020年の時点で約30万人います。2010年の約14.5万人と比較すると、2倍に増加し、今後も増えていくことが予想されます。そこで私が学校訪問をして感じたことをもとに、以下の質問をさせていただきます。</p> <p>(1) 文部科学省によると、特別支援学級は児童8～13人に対し1人の教員が必要とありますが、実際の現場では、児童一人一人の障害や困り感に個人差があるため、児童8人に対し教員1人は困難という声があります。教育長の所見を伺う。</p> <p>(2) 支援員の人数を増やしてほしいという声もありますが、この現状についてどのようなお考えか伺う。</p> <p>(3) 第464回定例会で、同僚議員からの一般質問に対する教育長の答弁で、教員不足が問題視されており、県教育委員会や文部科学省に対して教員確保について強く要望をしているところと答弁されていましたが、本市の小中学校の現状はどのようになっているのか伺う。</p> <p>(4) 教員確保について、今後どのように取り組んでい</p>	教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	12番 佐久間 順子	<p>かれるのか伺う。</p> <p>(5) 「障害のない社会をつくる」をビジョンに掲げ、障害のある方に向けて様々なサポートを行っている特別支援教育ソフトを市内の小中学校に試験導入しているとのことですが、教員方から子供たちに充実した支援を施せると大変良い反響があり、これからも障害を持つ子供たちや教員の負担や困り感を減らすために継続導入してほしいという声があります。今後の特別支援教育ソフトの活用の方向性について伺う。</p> <p>(6) 白石中学校の特別支援学級に通うお子さんの教室が狭いという声がありますが、このことについてどのようにお考えか伺う。</p>	教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	13番 村上由紀	<p>1. 高齢者福祉・介護保険政策について</p> <p>全国的に高齢化が急速に進む中、本市の令和5年10月末の高齢者人口は1万1,841人、高齢化率は37.7%で、市民の3分の1以上が高齢者となっています。団塊の世代が75歳以上となる2025年から、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年には、第8期の計画の推計値では、高齢化率は43.6%まで上昇すると見込まれており、このことから、要介護・要支援高齢者、認知症高齢者の今以上の大幅な増加が見込まれます。それに伴い、高齢者を支える世代の人口減少も顕著になることから、高齢者福祉・介護保険事業施策、地域包括ケアシステムの体制強化等に早急に取り組まなければならないと感じております。</p> <p>現在、令和6年から3年間を計画期間とする「白石市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定に取り組まれていると伺っており、超少子超高齢社会に対応できるような仕組みの構築が必要と考えます。そこで、本計画は事業の達成状況を点検・評価しながら、3年ごとに見直しを行うこととしておりますので、令和3年3月からの「白石市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」についての達成状況等について伺います。</p> <p>(1) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画について</p> <p>① 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の達成状況と今後の課題について伺います。</p> <p>② 第8期事業計画のアンケート調査の結果と分析を踏まえ、私が介護事業所等にヒアリングしたことをもとに質問します。介護事業者への事業上の課題についてのアンケート結果では、「利用者の確保」「従業員の雇用の確保・従業員の定着」が課題と55.6%と半数以上が回答しており、介護事業者からも、近年では企業努力をしてもかなり難しくなっているという声がありますが、この状況をどのように捉えているか伺います。</p> <p>③ アンケートによると、介護事業者が「介護サービス提供に関する書類作成の煩雑さ」が29.6%と約3割が課題に挙げていますが、この結果をどのように捉えているか伺います。</p> <p>④ 不足していると思う介護保険サービスのアンケートの結果では「訪問リハビリテーション、介護予防訪問リハビリテーション」で、現在本市では、サービスの提供を行う事業者がないということで、近隣市町村の事業者に頼っている</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	13番 村上由紀	<p>状況です。介護支援専門員連絡協議会でもサービス導入は必要と声が挙がっています。訪問リハビリは介護の重症化を防ぐために、重要度が高いものだと思いますが、本市としてどのように捉えているか伺います。</p> <p>⑤ 行政に期待することとして、アンケート結果では「介護保険以外の高齢者福祉サービスの充実」が35.2%となっていますが「介護保険以外の高齢者福祉サービス」の取組と課題について伺います。</p> <p>(2) 認知症対策について</p> <p>① コロナ禍の影響もあり、引きこもる人が多くなり、認知症が増加傾向にあります。7期から計画に盛り込まれている「認知症初期集中支援事業」を展開しているにも関わらず、アンケートの行政に期待することとして、「早期発見し専門医療につなげる仕組みづくり」を53.7%と半数以上が答えていますが、どのように捉えているか伺います。</p> <p>② 認知症の相談窓口を知っている人が約3割弱ということで、周知方法について伺います。</p> <p>③ 認知症の人や介護者への支援として、認知症カフェ「オレンジカフェ」や「出張オレンジカフェ」を開催されていますが、利用状況を伺います。</p> <p>④ 認知症及び独居世帯の高齢者の実態の把握について、具体的にどのようにしているのか伺います。</p> <p>⑤ 認知症の方の増加により、地域内での情報の共有が不可欠であると考えているが、どのようにお考えなのか伺います。</p> <p>(3) 高齢者の移動支援について</p> <p>① 第8期のアンケート結果にも、行政に期待することとして、「高齢者の移動支援（買い物・通院等）の取り組み強化」とあります。また、外出の手段についてのアンケート結果では、「85歳～100歳以上の方でも自分で運転している」という回答があり、この年齢でも運転せざるを得ない状況にあり、運転する本人のみならず周囲も危険であると思われる状況です。つきましては、高齢者の移動支援についてどのような取組をされているか伺います。</p> <p>② 第六次白石市総合計画のアンケート結果では、調査対象の92.3%が市民バス（きゃっするくん</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	13番 村上由紀	<p>）を使用していないと回答しています。令和4年度までの総合計画の評価一覧の「公共交通の整備」の具体的な改善策には、令和5年度から令和9年度までを計画期間とする新たな「地域公共交通計画」に基づき公共交通の施策を一体的に進めるとありますが、高齢者の移動支援にも関わるところですので、どのように進めているのか具体的に伺います。</p> <p>③ 第六次白石市総合計画の評価一覧に記載されている「公共交通の整備」の課題と具体的な改善策の中に、既存の公共交通では対応できない山間地域等での住民主体の移動・外出サービスの必要性が高まっているため、まちづくり協議会では、実証実験を踏まえた「地域主体による地域公共交通」実現に向けてのモデル事業を行っているということですが、こちらも、山間地域の高齢者の移動支援と密接に関わるところでございますので、地区の選定と事業の状況を伺います。</p> <p>④ 本市の公共交通の整備について、市長の見解を伺います。</p> <p>(4) 地域包括ケアシステムの深化と推進について</p> <p>① 団塊の世代が75歳に達する2025年以降、85歳以上の高齢者、認知症高齢者、独り暮らしの高齢者を、地域でどのように支えていくかが課題であり、地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進が求められます。今後、持続可能な白石市にするためには、高齢者の方々が地域でいきいきと健康で元気に暮らすことが大変重要と考えます。本市の現状の取組と今後の取組について伺います。</p> <p>② 人口減少、超少子高齢社会に直面しているのは、本市のみならず全国的な問題であります。本市の少子化対策、交流人口・関係人口の拡大のための政策は多いに評価でき、期待するところではあります。少子化対策においては効果が出るまでに何十年とかかります。であるならば、人口減少、高齢化率の増加が今後も続く前提で社会を構築していくことが必要なのではないかと考えます。本市の高齢化率が30%後半に迫る今、高齢者福祉のさらなる充実・強化のため、本市における高齢者を取り巻く現状と課題解決について、市長の見解を伺います。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	6番 大森貴之	<p>1. 防災行政無線等の整備について</p> <p>防災減災の観点から、本市においては「しろいし安心メール」をはじめ、各種連絡手段が設けられておりますが、利用するためには、あらかじめ個人においての登録が必要となっております。</p> <p>登録いただけない方の中には、携帯電話やパソコン機器等を利用されない方、ご高齢者や独り暮らしの方々もおられます。</p> <p>防災減災を有効に進めるためにも、一人でも多くの市民の皆様に、市からの連絡を速やかに受け取っていただけるような体制の整備が急務と考えます。</p> <p>白石市防災会議発行の「白石市地域防災計画・水防計画」各分野の第1章・総則「災害予防対策」において、「地域住民への災害情報の提供」との記載があります。</p> <p>これを踏まえて以下の質問をさせていただきます。</p> <p>(1) 現在、本市において、市民の皆さんに対しての情報提供には「しろいし安心メール」を含めてどのようなものがあるのかお伺いします。</p> <p>(2) それぞれの手法によって、何人の利用があるのかお伺いします。</p> <p>(3) 情報伝達手段として防災行政無線が挙げられますが、当市における活用事例をお伺いします。</p> <p>(4) 現在、総務省からは、各自治体に対して防災行政無線の整備拡充が推奨されておりますが、本市としてはどのように対応されているのかお伺いします。</p> <p>(5) 「白石市地域防災計画・水防計画」における「災害予防対策」では、「市の各施設、避難所に指定している小中学校や公民館、警察署・消防署・陸上自衛隊等防災関係機関、消防団各分団及び危機管理課・建設課・都市創造課・農林課車両においてデジタルMCA無線により伝達システムが確立されている」と記載されていますが、一般市民への情報伝達はどうかお伺いします。</p> <p>(6) 「白石市地域防災計画・水防計画」第2章（災害予防対策）、第27節（要配慮者・避難行動要支援者への支援対策）、2（地域における要配慮者等に対する対策）、（5）防災設備等の準備において、「緊急通報システム」が記されていますが、現状の運用状況についてお伺いします。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	6番 大森貴之	<p>(7) 本市においては地理的要因等から、沿岸部によく見られる外部スピーカーによる防災無線での情報伝達の効果はあまり期待できないところから、個別の受信装置を各家庭に配置する方法を検討すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p> <p>(8) 現在、防災行政無線の役割は、災害発生時の情報伝達にウエートが置かれていると強く感じますが、防災の観点からの運用をより多くの方面を巻き込み検討すべきと考えます。受信装置を各戸に配置したある町では、今夏の異常気象に伴う熱中症警戒警報を防災行政無線を利用し町民に報じ、町民からも喜ばれる成果を出しております。これ以外にも多くの課で有効利用できるものを検討し、防災に有効利用すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
8	11番 大内卓也	<p>1. 河川の氾濫対策における宮城県との連携</p> <p>一級もしくは二級河川の管理は国または宮城県で行っているが、大雨による氾濫を未然に防ぐためには、市と宮城県の間で情報共有を行うなどの連携が欠かせないものと考えております。</p> <p>(1) 現在の河川管理における、宮城県と本市の連携体制について伺う。</p> <p>(2) 河川浚渫工事の今後の予定について伺う。</p> <p>(3) 大河原町では、宮城県とのコラボ事業として白石川右岸河川敷等の整備事業を実施している。併せて令和元年に策定された「都市計画マスタープラン」を踏まえ、河川敷等を都市公園「おおがわら千本桜スポーツパーク」として整備を行っており、地域の防災拠点施設の機能も兼ね備えている施設の整備も実施される方向である。本市でも、白石川等の河川を活用した住みやすい地域づくりが、持続可能な町づくりに必要か考えるが、そのような計画が現在あるか伺う。</p>	市長
		<p>2. 指定避難場所の見直しについて</p> <p>指定避難所となっている場所について、建物が老朽化や、その場所が浸水する可能性があることから被害状況により避難所として適さない箇所があると認識しています。そのために風水害に適した避難場所の再構築、または建築物としての耐用年数を超えている地区公民館の新築についての考え方を整理したく、下記質問をいたします。</p> <p>(1) 風水害に関する指定避難所の見直しについての所見を伺う。</p> <p>(2) 地区公民館の新築計画についての所見を伺う。</p> <p>(3) (仮称) 白石中央スマートインターチェンジは、防災拠点も兼ねる計画である。いち早く市民の安心・安全を確保するためにも、他の施設よりも優先的に着手してもらいたいという思いがある。現在そのような計画があるか伺う。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	7番 佐久間 儀 郎	<p>1. 部活動の地域移行について</p> <p>部活動の地域移行は、学校教員の長時間勤務の是正や少子化により部活動の規模が縮小する中で生徒の活躍の場を確保することを進め、学校教員が担ってきた部活動の指導を地域のスポーツクラブや地域団体、関係事業に担ってもらうことで地域の活動に位置づけることを指します。国は「地域部活動」と呼んでいます。</p> <p>まずは2019年の中央教育審議会答申で、部活動の指導を「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」と位置づけ、「将来的には、部活動の学校単位から地域単位の取組にして、学校以外が担うことも積極的に進めるべき」という考えが示されていました。</p> <p>2022年12月、スポーツ庁及び文化庁は、2018年度に策定した「運動部活動の在り方並びに文化部活動の在り方に関する総合ガイドライン」を統合した上で全面的に改定して、『学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドライン』を策定しました。これは部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について国の考え方を提示したものです。2023年度からスタートして2025年度までに段階的に移行を進め早期実現を目指す方針を示しました。これを踏まえて、各地で部活動の地域移行の試みが進められてきています。</p> <p>先般、岩沼市教育委員会について、本年10月から4つの中学校で、休日を対象に比較的移行しやすい個人競技の陸上競技、バドミントン、卓球の3つの部から始めて、その他の運動部は2024年度以降、競技ごとに段階的に進める予定であり、文化部は2024年度からの移行を検討中ということが報じられました。移行後の姿として土日に活動するかどうかは生徒個人の判断としていて、移行先としては市の総合体育館でのスポーツ教室や既存の地域クラブ、保護者を中心とする団体などが想定されているようです。</p> <p>そこで、以下の諸点を伺います。</p> <p>(1) 部活動の地域移行については、メリットとして①生徒の選択肢が広がる、②専門的な指導が受けられやすい、③教員業務のスリム化が期待できることが挙げられ、デメリットとしては①指導者や受け皿の確保が容易でない、②生徒の安全上に不安がある、③保護者の経済的負担が求められるといった課題があるため、地域移行については賛否両論があるようです。本市の基本的なスタンスをお伺いします。</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	7番 佐久間 儀 郎	<p>(2) 本市においても教員の長時間勤務の是正や少子化により部活動の規模縮小で生徒の活躍の場を確保するなどの課題は、他自治体と共通していると思います。そこで国のガイドラインを踏まえて部活動の地域移行は前向きに試行してみるべきと考えますが、これまでに地域移行は検討されてきたものなのかをお伺いします。</p> <p>(3) 部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべきです。そのためには地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校との関係者を集めた「協議会」などを組織化し、体制整備をすべきと考えますが、ご所見を伺います。</p> <p>(4) 地域移行には、岩沼市のようにスポーツ教室や既存の地域クラブ、保護者を中心とする団体などが想定されます。運営タイプとしては、1)教育委員会が関係団体と連携して運営する 2)市が任意団体を設置して運営する 3)総合型地域スポーツクラブ運営や体育・スポーツ協会運営、または民間スポーツ事業者に移行する形態が挙げられると思います。文化部活動では、地域団体が中心となって「地域文化クラブ」を創設する形態が考えられます。本市には、総合型地域スポーツ・文化クラブが設置されていますのでこれを充実、発展させて運動部活動移行の受け皿とすることが考えられます。ご所見を伺います。</p> <p>(5) スポーツ庁は、休日運動部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向けて、2023年度予算として「地域スポーツクラブ活動体制整備事業等」に81億7,718万円を計上しています。また、スポーツ庁・文化庁は、経済的に困窮している家庭の中学生に部活動支援金を定額支給します。地域クラブで想定される指導者への指導料や会費、施設使用料、大会等への送迎費用など保護者の経済的負担が生じますが、これを緩和すべく補助金等を生かしていく、また経済的に困窮している家庭の中学生には就学援助の対象範囲を拡大するなどの支援を行うことが考えられますが、ご所見を伺います。</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
10	2番 高子 秀明	<p>1. 本市の農政について</p> <p>本年の農林畜産業は、記録的な高温や水不足、肥料や飼料の原料価格が高騰したままであり、過酷な条件下での営農でありました。作付品目によっては生育不振であったものの、水稻に関しては作況指数 105 で「やや良」となり、一等米の比率は下がっているが収穫量への影響は少なく、作柄は平年以上との見方でありました。</p> <p>農政の喫緊の課題である一つに耕作放棄地、遊休農地の拡大が挙げられますが、本市においてはピーク時の平成 22 年度 540 ヘクタール比べ、令和 4 年度では約半数近くの 279 ヘクタールまで減ってきており、当局および農業委員、農地利用適正化推進委員の活動に対して大いに評価すべきところであります。</p> <p>しかしながら、農作業、特に水稻栽培において、作業委託せざるを得ない農家が増えている中、受託する農家、経営体は減少し続けております。この状況を鑑みれば、ますます行政指導の「実質化された人・農地プラン」の充実を期待するところであります。</p> <p>令和 4 年 1 月 6 日に公表されました、市内 9 地区の「実質化された人・農地プラン」などを参考に、以下質問いたします。</p> <p>(1) 実質化された人・農地プラン「設問 1、対象地区の現状」の③地区内における中心経営体以外かつ 70 才以上の農業者の耕作面積の合計のうち、後継者について不明の農業者の耕作面積の各地区合計 301 ヘクタールでありました。このことについて現在までの間、後継者不明ではなくなったなど各地区の取り組みで改善傾向にあるのか伺います。</p> <p>(2) 「設問 2、地区の課題」において、各地区共通する課題は後継者不足や担い手の減少であり、切実な状況であることは察するに余りあります。本市の補助金制度に令和 4 年 12 月告示施行の「白石市経営発展支援事業補助金」を有効活用し、就農されている経営体があるか伺います。</p> <p>(3) 「設問 4、対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針を実現するために必要な取組」のうち「中心経営体への支援」に「行政に対して高額な農業用機械購入費補助制度の創設を働きかけ、担い手の経営安定と後継者の確保を図る。」と記載があります。このことに関して、「白石市経営発展支援事業補助金」よりも幅広い範囲で補助対象者を定め、既存の農家や中心経営体などの要望に応える検</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
10	2番 高子秀明	<p>討をしているのか伺います。</p> <p>(4) 「設問4」のうち、「新規・特産化作物の導入方針」には、ほとんどの地区は「急傾斜地にある農地や面積が狭小な農地が多い集落では、米、麦などの土地利用型作物以外に、収益性の高い作物の生産に取り組むことを目指す。」と記してあります。中には「景観作物や山菜栽培」と具体的な例を記載している地区もありますが、収益性の高い作物を導入した例があるのか伺います。</p> <p>(5) 昨今の情勢を受け、肥料や飼料の原料価格が高騰し、耕種農家・畜産農家双方の経営が大変厳しくなっているのは周知の事実であります。人・農地プラン上で本市の耕畜連携・循環型農業の現状について伺います。</p> <p>(6) 農業用水の保全管理、堆積土砂の撤去等、作業者の減少・高齢化により各地区困難な状況であると聞き及んでおります。特に山間部での保全管理は、水路と畦畔・法面との落差が大きく、危険を伴う作業になります。それに係る各地区からの要望に対して、現状での本市の対応と今後の方針を伺います。</p> <p>(7) スマート農業に関して、作業効率向上のためには先端技術の活用は必須であると考えます。市内で既にドローンを活用した農作業の省力化・時短化を活用している地域はあります。今後、農地集約化した上で、さらに作業効率向上に、本市としてAIやドローンなどの先端技術を取り入れていく方針について協議されているか伺います。</p> <p>(8) 令和4年5月に法制化された「地域計画」について、本年第462回定例会、予算審査特別委員会において同僚議員からの質疑の答弁と同様になるかと思いますが、「人・農地プランから地域計画へ」の概要をさらに詳しく説明を求めます。</p> <p>(9) 本年6月農林水産省発出の「地域計画策定マニュアル（6月30日時点）」を見ますと、計画実現まで地域内の幅広い関係者との協議・調整の上、信頼関係の構築が必要不可欠となります。本市の農政について「地域計画」を実現活用し、どのような将来展望があるか伺います。</p>	市長